

富山県教育委員会教育長 殿

富山県立雄山高等学校
校長 森田 慎一

平成23年度学校総合評価を別紙(様式5)とともに提出します。

平成23年度学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では、今年度生徒の心身両面の更なる成長と魅力ある学校づくりを目指し、6つの重点項目と11の達成目標を設定し、実践した。

6つの重点項目のうち、「教科指導の充実」では、「授業の公開」が目標の数値を超えるとともに、雄山中学校の教員との互見授業の取り組みも学校評議員の評価が高かった。また、「専門科目(家庭)の学習指導の充実」においても、食物調理1級、被服製作洋服1級、和服1級のいわゆる「三冠王」が5人誕生するなど学習・実技指導の徹底による成果が表れた。生徒の「卒業時における生活文化科に対する満足度」も、目標を超える数値が得られた。学校評議員からも、県下でも数少ない家庭科の専門学科としての特色を大いに発揮して欲しいとの意見を寄せられた。

しかしながら、「教科指導の充実」では、生徒の「授業以外の学習時間」が目標を下回った。生徒の学習意欲が向上し基礎学力の定着・充実が図れるように、担任や教科担当者が個別指導を充実させるなど指導を推進していくとともに、家庭と連携を図りながら学習環境の整備に努める必要がある。「交通安全指導の充実と基本的生活習慣の確立」では、「交通事故の発生件数」はゼロを目指したものの前年度よりも発生件数が増加し、「無欠席生徒の割合」も目標に達しない結果となった。学校評議員からは、交通安全教室といった全体に対する指導とともに、家庭との連携を一層密にしながら基本的生活習慣の確立を図り、交通安全と欠席・遅刻の少ない学校となるよう継続的な指導を行ってほしいという要望があった。

全体的に見ると目標達成まであと一歩というところであるが、アクションプランの目標達成に向けて、新しい試みが実践されるようになってきている。例えば、進路指導に関わっては、1年次の進路探訪に加え、2年次に進路ガイダンスを企画し、早期に進路意識が高揚するよう図った。また、進学希望者に対してはどの学年でも特別補講や学習合宿への参加を働きかけ、進路実現の体制づくりに努めている。このような教職員の意識の高まりとそれに呼応した生徒の活動をより発展させ、魅力ある学校作りを進めていきたい。

7 次年度へ向けての課題と方策

今年度の本校のアクションプランの11の達成目標についての評価は、Aが4、Bが2、Cが4、Dが1となった。Aについては更なる向上を目指すなど、各項目について評価にとらわれることなく検証・精査し、次年度に向けたよりよい方策を検討していきたい。

現在、本校では、『魅力ある学校・地域から信頼される学校の実現』のスローガンのもと、中長期ビジョンの具体策の策定を進めているところである。このスローガンを達成するには、本校教育活動の一層の活性化や地域に開かれた学校作りが必要不可欠である。そのためには、学校評議員を始めとする外部評価を積極的に受け入れるとともに、教職員間の研修機会を増やすなど、教職員が一体となれるような組織的な取り組みを推進する必要がある。

〈様式5〉

8 学校アクションプラン

平成23年度 雄山高等学校アクションプラン		- 1 -
重点項目	(1 学習活動) 教科指導の充実	
重点課題	教科指導の改善と基礎学力の定着・充実を図る。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・互見授業、生徒による授業評価を行い、各教科部会等で改善へ向けての取り組みを行っているが、外部からの授業についての評価が十分に行われていない。 ・生徒一人一人に、自分自身の具体的な目標がないため、学習意欲が低く、家庭学習時間が十分に確保されていない。そのため、予習が不十分なまま授業に臨んだり、復習や課題が疎かになったりしている生徒がいる。そのため、基礎学力が十分、身に付かない生徒がいる。 	
達成目標	①授業の公開 年2回	②授業以外の学習時間 90分以上の生徒の割合60%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や中学校教員への授業公開を計画する。また、中学校教員との間で教科指導の中高連絡についての研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習・生活実態調査と学習時間調査をそれぞれ年2回実施し、生徒の学習及び生活状況を調べる。それらの結果をもとに、生徒に対する指導を計画的に行う。 ・個別面接を積極的に実施し、生徒一人一人の見方や考え方を把握するとともに個別指導を行う。 ・学習習慣を身に付けさせるために、課題に取り組みさせる。また、学習した内容を定着させることを目的とした課題にも取り組みさせる。特に週末課題を工夫し、休日における家庭学習の習慣化を確立する。 ・長期休業中、日々の学習計画表を作成させることにより、計画的に学習に取り組みさせる。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・7月11日(月)に保護者向けの公開授業を実施した。 ・11月21日(月)、11月24日(木)に雄山中学校の教員に授業を公開した。 ・1月17日(火)に雄山中学校の授業を参観した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月25日～5月1日に学習時間調査を実施した。90分以上授業以外の学習を行った生徒の割合は、 1年 普通科30.2%、生文科35.8% 2年 普通科31.0%、生文科23.78% 3年 普通科35.1%、生文科 2.4% だった。 2月に2回目の学習時間調査を実施する予定である。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・7月11日(月)の2限から4限の授業を保護者に公開した。参観保護者数は、1学年20名、2学年12名、3学年5名の計37名であった。参観後、保護者からの感想等をアンケートで尋ねた。 ・11月21日(月)、11月24日(木)全日、雄山中学校の教員に授業を公開した。参観教員数は14名であった。参観後、アンケートで授業の講評を尋ねた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面接を、1学期は4月と5月から6月にかけて2回実施し、2学期は9月から10月にかけて1から2回実施した。そのほか、必要に応じて面接指導を行った。 ・課題の提出は、すべての生徒が提出するよう教科担当・担任で指導している。 ・1,2学期の成績不良者に対し、夏期及び冬季休業中に補講を行った。
評 価	A <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や、中学校の教員等に授業を公開することができた。 	D <ul style="list-style-type: none"> ・1週間の学習時間の平均が90分以上の生徒の割合が学年進捗とともに増えてくるが、30%台で目標にかなり及ばない。生徒の学習に対する意識を高める必要がある。
学校評議員の意見	授業の公開・互見授業など継続して行うことが大切だと思う。年度初めの「学習指導委員会」が示される各学年の「指導方針」を全教員が共通理解することも大事だと思う。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・参観保護者数を増やしたい。保護者の学校への理解が深まるようにしたい。 ・雄山中学校との連携し、お互いの意見を交換することにより授業の改善を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での学習習慣を身に付けさせる必要がある。そのため、個別指導や、個別面談が必要である。 ・生徒一人ひとりに、自分自身の具体的な目標を持たせるよう指導していく必要がある。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:後退した)

〈様式5〉

8 学校アクションプラン

平成23年度 雄山高等学校アクションプラン		- 2 -	
重点項目	(1 学習活動) 専門科目(家庭)の学習指導の充実		
重点課題	・家庭科技術検定を通して、専門科目の基礎的・基本的な知識と技術の習得を図るとともに、生活文化科での学びに対する達成感や充実感を高める。		
現 状	・中学校での家庭科の学習内容の縮減や、家庭や地域における生活体験の希薄化により、家庭に関する基礎・基本が定着しにくく、創意工夫の意欲が乏しい生徒が増えている。		
達成目標	①家庭科技術検定における 合格率・取得率	②卒業時における生活文化科に対する満足度	
	4・3 食物調理 100% 100% 級 被服製作 100% 100%	90%以上	
	2級 食物調理 90% 90% 被服製作(洋) 90% 90% 被服製作(和) 90% 30%		
	1級 食物調理 80% 30% 被服製作(洋) 80% 20% 被服製作(和) 80% 15%		
方 策	・家庭科技術検定合格に必要な学習指導、実技指導の徹底を図る。	・専門科目全般の学習指導および体験的・総合的な学習の充実を図る。	
達成度	①家庭科技術検定における 合格率・取得率	・3年生(39名)を対象にアンケートを実施した結果、大変よかった(31名)、よかった(6名)をあわせ、95%(37名)が本校生活文化科で学んでよかったと回答した。	
	4・3 食物調理 100% 100% 級 被服製作 100% 100%		
	2級 食物調理 94% 94% * 被服製作(洋) 50% 50% 被服製作(和) 100% 47%		
	1級 食物調理 87% 32% * 被服製作(洋) 100% 22% 被服製作(和) 64% 22%		
具体的な取組状況	・4級、3級については、基本的な技術の習得を目標に指導した。 ・2級、1級は、高度な技術と応用力が必要とされるため、個別指導を行った。	・被服、食物などの科目を基本に、各自の進路希望や興味関心に対応した選択科目を設置している。 ・特別講師招聘した授業の展開、校外学習を計画的に進めることで、専門学科の学習の深化に努めている。	
評 価	B ・現在までの実施分については、概ね達成している。	A	・満足度は90%を上回り、目標を達成した。
学校評議員の意見	各自の進路希望や興味関心に対応した選択科目の設置は大変よいことだと思う。特別講師招聘事業や校外学習・生活体験の機会を多くして、基礎基本が身につくようにしてほしい。		
次年度へ向けての課題	・基本的技術の習得を図り完成度を高めるため、全体指導と個別指導を効果的にできるよう工夫をする。	・専門教科を学ぶことでどのような進路に繋げていくか、検討を進める。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:後退した)

〈様式5〉

8 学校アクションプラン

平成23年度 雄山高等学校アクションプラン		- 3 -	
重点項目	(2 学校生活) 交通安全指導の充実と基本的生活習慣の確立		
重点課題	自転車乗車時の安全意識の向上を図る	欠席をする生徒数を減らす	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度(平成22年度)は、6件の交通事故が発生し、そのすべてが自転車乗車中によるものであった。幸い命に関わるような大事には至らなかったが、交通安全指導の強化を早急に行っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度(平成22年度)無欠席だった生徒は、全体の48.2%で半数以上の生徒が、何らかの理由で欠席をしていた。特に冬期間に欠席数が増加する傾向があり、冬場の体調管理を徹底する指導が必要である。 	
達 成 目 標	①交通事故の発生件数ゼロ	②無欠席生徒の割合60%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・週に1回以上、登下校時に学校周辺の道路や交差点で生徒指導部職員を中心に交通安全指導を行う。 ・特に自転車の二人乗りや傘さし、イヤホンの使用などを重点的に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・皆勤に対する社会の高い評価を適宜生徒に伝える。 ・冬期間の手洗い(消毒)やうがいの徹底を特活厚生部と連携して行う。 	
達 成 度	交通事故発生件数 7件(1/20現在) ※前年度は6件 ※すべて自転車乗車中の対自動車の事故	無欠席生徒の割合・・・51% (2学期終了時点) 1年・・・54% 2年・・・49% 3年・・・48%	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体として年間21日を交通安全指導日と定め指導した。(前年度は17日)また、生徒指導部独自による指導を別に20日間行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や部活動など、あらゆる場面で皆勤に対する意識を持たせる指導を行った。 ・欠席が目立つ生徒に対しては、家庭訪問や保護者に来校していただき情報交換を行った。 ・3学期から消毒用のスプレーを校内に配置した。 	
評 価	C <ul style="list-style-type: none"> ・事故発生件数が増加してしまった。また、生徒指導部独自の指導は、予定の半分程度しか実施できなかった。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・より効果のある具体的な方策を取れぬままに終わってしまった。
学校評議員の意見	交通事故の多発はとても残念である。本校生に限らないが、事故の多発は、若者の自己中心的な行動の表れだと思う。交通安全教室は全校生に対して年2回以上行ってほしい。皆勤も大切だが、欠席の理由を分析してみてもどうか。		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生を対象として実施している交通安全教室の内容を見直す。 ・違反生徒に対する指導が口頭注意だけではなかなか効果が上がらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期終了毎に皆勤者を発表するなど皆勤に対する意識の高揚を更に図る。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:後退した)

〈様式5〉

8 学校アクションプラン

平成23年度 雄山高等学校アクションプラン		- 4 -
重点項目	(3 進路支援)進路実現を図るための基礎学力の充実	
重点課題	具体的な進路目標を早期に設定させる。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 自己を見つめ、自らの姿勢や考えを、社会的諸問題に対し、論理的な思考のもとに適切に表現するための基礎学力が身につけていない生徒が多い。 3年生になって、なお進路目標を決めかねている生徒がいる。 	
達成目標	①2学年3学期開始時において具体的な進路目標を明確にする。	②生徒が第1希望とする進学先の合格率と就職先の内定率
	90%以上	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 適性検査及び進路ガイダンスを計画的に行う。また「職場の先輩に聞く会」など卒業生の話を聞く機会を充実することにより、自己を見つめ、進路についての考えを深めるようにする。 担任を中心として、面接の機会を重視し、生徒の進路目標への意欲を引き出し、向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスや職場見学に参加できるように適切な情報を随時提供する。 学習合宿や早朝補習、放課後補習などをおして基礎学力を定着させ、目標達成に向けて、さらに発展を図る。 面談を重ねることにより、生徒の志望を確かなものとし、安易に妥協しないような指導に努める。また、保護者懇談会の機会を利用して、家庭との連携の緊密化を図り、協力を求める。
達成度	90.6%	<ul style="list-style-type: none"> 進学先の合格率：63% 就職先の内定率：61%
具体的な取組状況	総合的な学習の時間等を利用して、進路適性検査や進路ガイダンスを行った。また担任との面接を繰り返しながら、具体的な進路志望先の決定を意識させた。特に、2学期末の保護者懇談会時で、長期休暇を利用して家族と共に進路について話し合うように、本人はもちろん保護者に対しても進路決定への協力をお願いした。	<ul style="list-style-type: none"> 進学希望者、特に難関大学受験を目指す生徒には、夏季休業中の学習合宿において、受験予定校に関する研究を深め、志望理由書の初稿を書かせた。 就職希望者に関しては、求職と求人のミスマッチが生じないように、応募前職場見学に積極的に参加させた。
評 価	A 本人の意識、保護者の協力、担任を中心とした2学年関係教諭の働きかけにより、目標を達成することができた。	C 本校の就職希望者は例年に比べ少なかったのだが、安定志向の高まりから、公務員や薬品製造関連企業への人気は県内で高く、本校生徒はその分野で苦戦した。進学希望者は、実学志向の高まりから、看護・保育系への希望が多く、その分野で苦戦した。また、国公立大学では、富山大学に2名が推薦入試で合格した。
学校評議員の意見	進路指導は生徒の将来を決定する重要なものであり、新入生の頃からの継続的な取り組みが結果につながる。家庭も含めた指導に注力すべきだと思う。	
次年度へ向けての課題	今年度同様、生徒との面接を通して理解を深め、生徒の現状と目標を的確に把握した上で進路決定がなされるように指導したい。その一助となるように、進路ガイダンスや大学等への探訪の機会を充実させ、自信の将来に夢を抱き、その実現に向けて取り組む気概を持った生徒の育成に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 就職希望者の基礎学力の養成と充実をさらに図る。また、早期に希望職種等を把握し、求人開拓に反映させる。 進学希望者の中で第1希望校に合格していない生徒の多くは難関校志望者である。本校の実態からすると、特に難関校を希望する生徒に対して推薦による受験を視野に入れて指導を早める必要がある。志望動機作成準備など受験校研究を深め、生徒の受験指導が効果的になされるよう組織的な指導体制の構築を図る。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:後退した)

〈様式5〉

8 学校アクションプラン

平成23年度 雄山高等学校アクションプラン		- 5 -	
重点項目	(4 特別活動) 特別活動の充実		
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動を通して、公共心と自主性を養う。 ・部活動を活性化する。 		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会が企画した各種ボランティア活動の参加率は、おおそ軌道に乗ってきている。特に春秋のさわやか運動は、生徒会執行部や各ホームルーム役員が積極的に取り組んでおり、地域と連携を取りながら進められている。 ・ボランティアへの参加動機においてははまだ受動的なところがあり、自ら進んで参加する生徒ばかりではない。 ・1学年は全員部活動加入制をとっているが、決して積極的な活動参加とは言えず、2学年進級時大幅に加入率が低下しているように思われる。 ・生徒全体の傾向として、辛いことを避ける傾向がある。また、協調性に欠け人間関係を築くことが苦手な生徒が目立ってきている。 		
達成目標	①ボランティア活動体験率 年度内 生徒参加率 90%	②部活動満足度調査 75%以上 満足	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民との連携を視野に入れ社会全体に貢献できるボランティア活動を目指す。 ・ボランティア活動を行うことによって生まれる多くの効果を学習させる。 ・日常的なボランティア活動から生徒会が企画する活動・地域で行われる活動まで幅広い活動を数多く体験させる。 ・学期ごとにアンケート調査を実施して、ボランティア活動体験率を確認し、達成感も確認する。 		
達成度	生徒参加率 全校 58.2% (1年 45.4%) (2年 58.3%) (3年 79.7%)	部活動に満足している生徒 77.4% 学年が上がるにつれ満足度もアップしている。	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・校内で行うボランティア活動について生徒会の白板や放送を利用して、事前にピーアールをして参加を募った。 ・短時間で終わられるよう手順を確認し、部活動等に影響しないよう工夫した。 ・地域で行われるボランティア活動を紹介し、参加を呼びかけた。 ・参加人数 花いっぱい運動 (のべ507名) あいさつ運動 (のべ119名) 		
評 価	C	A	・数値目標は達成した。
学校評議員の意見	ボランティア活動は、生徒の自宅地域とのつながりも重要である。難しいかもしれないが、保護者の協力を得られるような工夫が必要だと思う。部活動は、その時は苦しくても、将来の人生にとってプラスになることが多いのでは非頑張ってほしい。		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアに参加していない生徒の中には、忙しさを理由に挙げている生徒が多く見られる。忙しくても短時間でできるようボランティア活動の工夫が必要である。 ・1年生は全員加入のせいか、部活動に対する不満を持っている生徒が目立ち、2学年進級時加入率が低下している。魅力ある部活動にするための工夫が必要である。 		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:後退した)

〈様式5〉

8 学校アクションプラン

平成23年度 雄山高等学校アクションプラン		— 6 —
重点項目	(4 特別活動) 読書習慣の定着	
重点課題	図書館利用率の向上を図る。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の図書に対する興味・関心が低く、じっくり物を考える生徒が減少している。 ・推薦入試等では、小論文重視傾向が強まっているが、生徒は、小論文に関する基本的な知識が備わっておらず、苦勞している。 ・生徒の図書館利用率が低い。また、図書館利用者が固定している。 	
達 成 目 標	①年間図書貸出生徒の割合 60%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会の活性化を図り、その主体的な活動を通して、各クラス・全生徒への適切な情報の提供に努める。 ・新しく入った図書の掲示を生徒玄関の近くで行う。 ・図書館の開館日や時間を増やすための工夫を行う。 ・小論文対策の書籍・資料を収集し、朝読書やHR等で生徒が参考にできるよう工夫する。小論文コーナーを設けることも検討する。 ・図書館だよりや教養講座を通して知的好奇心を高める。 ・図書館の利用者総数を明確にする。 	
達 成 度	・現在、図書貸出生徒数の割合は62%であり、目標(60%以上)をやや越えた数値に到達している。	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中、図書委員運営のもと全日開館(9:30~12:00、13:30~16:00)ができた。 ・進路指導部の協力のもと、進路対策の書籍・資料を集め充実させた。 ・館内では利用しやすいように見出しや配置に配慮している。 ・生徒向けのリクエスト用紙を置き、図書購入に生徒の要望を反映し、生徒が図書館に行きたいと思えるよう配慮している。 ・図書館の利用総数を明確にしている。現在、6,594名 ・図書委員会を昨年より多く開催し、他の生徒へ本の貸出しや図書館の利用を呼びかけた。 ・小論文コーナーを設けた。 ・授業やHR等で図書館の活用を促進し、図書貸出も推進した。 	
評 価	B	昨年よりかなり人数は上回り、目標とする60%に届いた。
学校評議員の意見	読書習慣の向上は基礎学力の向上させ、自己(自らの生きる姿勢や考え方)を見つめ直す機会を与える。また論理的な思考を深め、表現力を豊かにしてくれる。読書会や発表会を開き、本に接する機会をもっと増やす必要がある。図書館の運営に関して、生徒個人の興味や嗜好を調査・分析して、それを図書購入などに反映させるようにしてほしい。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・10月以降の貸出生徒数が伸び悩む傾向があるので、冬季休業中なども活用し、より多くの生徒が本を借りるように工夫したい。 ・新着図書の紹介にとどまらず、図書館のお勧め本など今後とも幅広い広報活動を推し進め、生徒向けのリクエスト用紙の活用をもっと呼びかける必要がある。 ・図書館の利用総数が昨年より1,000名余り減少している点が懸念される。図書館離れにならないように注意したい。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:後退した)